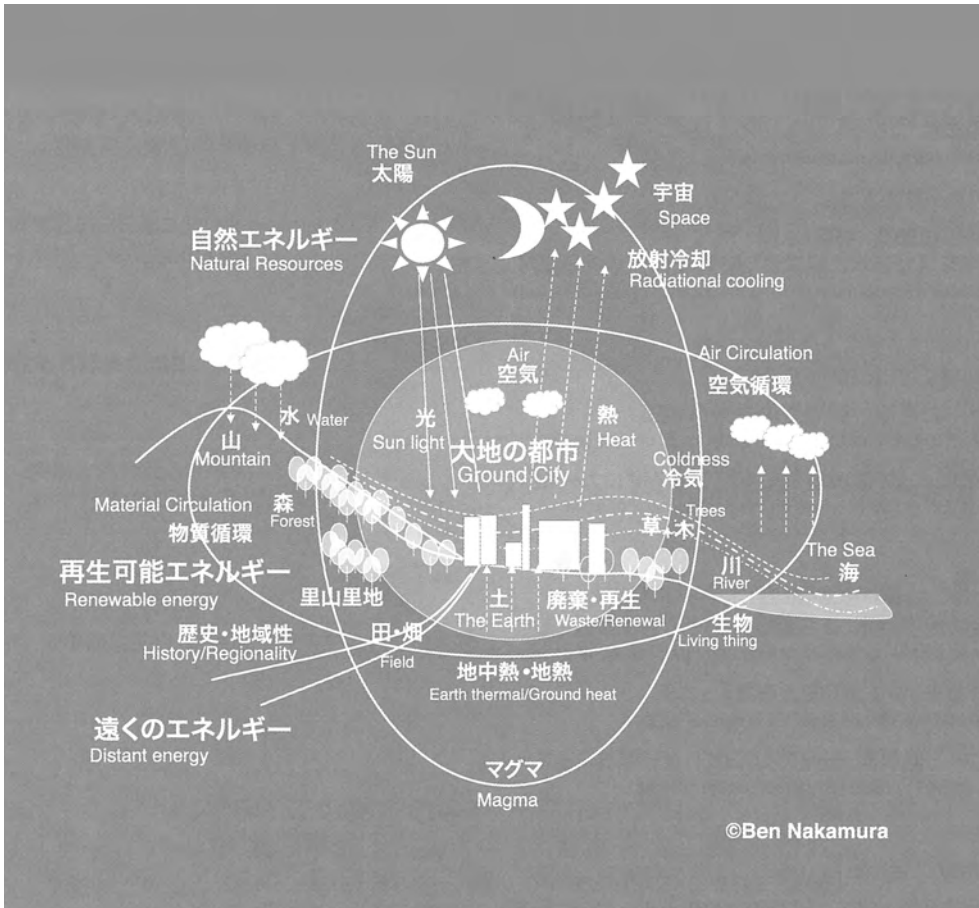


地域特性を活かし、 低炭素・人口縮減時代にふさわしい 自立・循環・開放系都市と 分かち合いのコミュニティをつくる



市民参加型講演会にあたって

図版出典：日本建築学会
「低炭素社会の理想都市実現に向けた研究」
の基本理念より

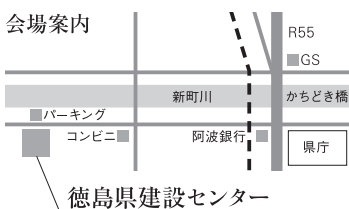
気候変動、エネルギー問題、資源枯渇・食料問題など地球環境問題に対する待ったなしの行動が求められる時代になりました。2050年までに地球の温暖化を2℃ぐらいまでに抑えようというのがIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の考え方で、そのために70%から80%のCO₂の削減が大きなテーマになっています。アメリカの環境活動家レスター・ブラウンは、IPCCより厳しい予測をした上で、2020年までに世界が80%以上のCO₂削減をしないとヒマラヤの氷河が溶け出すという、これも人類滅亡のシナリオを描いています。

身近な住まいの周りでも、メダカ、蝶やトンボなど見慣れた生き物をあまり見かけなくなったり、子供のときから経験してきた季節感がもたなくなっています。記録的な豪雨が毎年更新されるようなニュースに慣れてしまい、環境の著しい変化を否応なく感じます。3.11の未曾有の東日本大震災以降、エネルギー問題が深刻さを増し、一方で、南海大地震や、東南海等との巨大連動地震の予測が見直され、防災・減災対策にこれまでにない準備が必要になりました。日本の人口縮減・高齢社会問題、財政・地域経済問題など様々な課題と重なり、それぞれは決して単一課題の対策では応えられなくなったと言えます。私たちのライフスタイルと向き合い見つけなおすことから、自然の営みの中で暮らし、生き抜いてきた人間の知恵を社会に戻す時代を迎えたと考えます。

問題の克服に向けて、専門家の世界に留まらず、様々な市民・住民と問題意識を共有し、連携を育んでいくことと、みんなでつくりあげていくとする多世代、多様な人々が集まるコミュニティの力や、地域の環境特性を生かしたまちづくりや地域づくりが求められます。

低炭素社会において、木は非常に重要な役割を担います。わが国の環境建築のトップランナーとして活躍されている中村勉氏に、木でつくる2050年ゼロカーボン社会を視野にお話をさせていただきます。近代化社会の価値観から低炭素社会への転換を意識した中村氏の建築や地域づくりの取り組みが、21世紀の建築のあり方や地域づくりを模索したり、地域の様々な専門家や市民の活動を支える機会にし、森林資源に恵まれた徳島において、地域に根ざす建築や環境を育む一助になることを願います。

[社] 日本建築学会四国支部徳島支所長
新居照和



駐車場はございません。近隣のパーキング
または公共交通機関をご利用ください。